

第六條

衛生事務ハ自宅又ハ戸長役場ニ於テ取扱等ハ其便宜ニ從フ可シ

第七條

衛生委員ノ服務年期及ヒ給料ノ有無多寡經費支辨法等ハ其町村ノ協議ヲ以テ定ムヘシ

第八條

衛生委員ヲ投票スル撰舉人ハ其町村居住ノ戸主被撰舉人ハ其町村居住ノ者ニテ丁年以上ノ男子ナルヘシ

駿知縣町村衛生委員事務取扱心得

第一條 出産死亡流産ノ員數ヲ取調一ヶ月分取纏メ翌月十日迄ニ郡區長ニ差出ス事

第二條 中毒死亡ハ醫員申立書ヲ相添其時々届出ル事

第三條 市街道路井戸水道下水便所肥溜芥溜等ヲ清潔ナラシムル爲メ其掃除方ニ注意シ又其建築修繕等ニ付漸次改良ノ見込ヲ立申出ル事

第四條 學校病院旅籠屋借家芝居貸座敷湯屋温泉場公園寄席社寺境内等ノ掃除方並ニ建築方ニ注意シ衛生上ノ利害ヲ考ヘ漸次改良ノ見込申出ル事

第五條 市場製造場畜場屠場魚干場等ハ其位置及ヒ建造方ニ注意シ健康ヲ害スル事由アラハ之ヲ改良スルノ見込ヲ申出ル事

第六條 腐敗セル魚鳥獸肉蔬菜類不熟ノ菓物不良ノ鹽藏食物及ヒ質造ノ粉類等ノ販賣ニ注意スル事

第七條 飲水氷牛乳ノ善惡其他飲料ノ腐敗質造ニ注意スル事

第八條 毒藥劇藥質敗藥墮胎藥及ヒ製藥膏藥等ノ取締ニ注意スル事

第九條 飲食物玩弄品等ノ着色料ニ注意スル事

第十條 墓地ノ位置經界ヲ見定メ及ヒ埋葬火葬ノ手續ヲ考ヘ申出ル事

第十一條 埋葬場ノ地形火葬場ノ建造方ヲ吟味シ其取締ノ方法ヲ考ヘ殊ニ傳染病流行ノ時ニハ埋葬火葬日々ノ員數ヲ取調毎週之ヲ申出ル事

第十二條 虎列拉腸窒扶私發疹窒扶私痘瘡麻疹實布の里亞赤痢等ノ傳染病アリテ醫師ヨリ申出ル時ハ直ニ郡區長ニ通知シ速ニ豫防法ニ取掛ル事

第十三條 家畜傳染病流行スルハ之ヲ郡區長ニ通知シ適當ノ豫防法ヲ爲ス事

第十四條 各種傳染病ノ勢次第ニ盛ナルルハ郡區長ノ指圖ヲ受ケ町村會ノ公撰ヲ以テ臨時衛生委員ヲ増加シ消毒ノ方法及ヒ患者ノ引分夕方等ヲ協議シ其處分ヲナス事

第十五條 傳染病ノ種類ヨリ消毒ノ方法患者ノ引分夕方ニ付其輕重ヲ斟酌スル事

第十六條 人家稠密ノ町村ニ於テ避病院ノ場所ヲ見定メ患者死者取扱ノ當否ニ注意シ患者ノ出入至治死亡等ヲ日々郡區長ニ申出ル事

第十七條 町村内ノ未タ種痘セサル者ヲ取調普ク種痘

セシムル様盡力スル事

第十八條 痘瘡流行ノキニハ說諭シテ再三種ヲ促カヌ事

第十九條 町村内ノ醫師ヨリ出タセル種痘ノ統計表ヲ取纏メ每期之ヲ郡區長ニ差出ヌ事

第二十條 癩病脚氣瘧疾等地方病ノ有無其類別及ヒ多少ニ注意シ之ヲ郡區長ニ申出ル事

第二十一條 町村ノ便宜ニ從ヒ其公議ヨリテ町村醫ヲ設ケ貧民救療ノ見込ヲ立テ申出ル事

第二十二條 衣食住其他習俗ノ從健康ヲ害スヘキモノニ注

意ノ改良ノ見込ヲ申出ル事

第廿三條 町村内戸數人員并ニ職業等取調ノ事

第廿四條 些末ノ事件ニシテ急速着手處分セサルヲ得

サル事ヲ除クノ外ハ總テ開申ノ上本廳ノ指圖ヲ待テ
處分スル事

第廿五條 本廳郡區役所へ開申スル條件ハ戸長ヲ經由
シテ差出事

甲第四十五號

明治十三年四月十七日

本年一月太政官第壹號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候
ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之

モノハ該規則ニ照シ賣買可致旨内務省達ノ趣ニ有之候
條心得違ヒ無之様可致此旨布達候事

甲第四十八號

明治十三年四月二十四日

地方衛生會規則別冊之通被相定候條此旨布達候事

(別冊)

第五十五號

府 縣

今般地方衛生會規則左之通相定候條此旨相違候事

明治十二年十二月廿七日

太政大臣三條實美

地方衛生會規則

第一條 本會ハ地方衛生ノ全体ヲ視察シ人民ノ健康ヲ保持増進スルノ目的ニシテ府知事縣令ヲ輔翼スルカ

タメ設立スルモノトス

第二條 本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

醫師三名乃至五名

府縣會議員三名

公立病院長

公立病院藥局長

衛生課長

警察官一名

第三條 本會ハ府知事縣令ノ管理ニ屬シ其委員ハ府知事令之ヲ命ス

但醫師ハ府縣會議員ナシテ管内ノ開業醫師ヲ公撰セシメ府縣會ヨリ出ス所ノ委員ハ其府縣會ニ於テ之ヲ公撰セシム

第四條 會長ハ府知事縣令之ニ任シ副會長ハ委員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定ス

第五條 公撰委員ノ在任ハ滿二ケ年トナシ滿期毎ニ之ヲ改撰ス

但前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第六條 委員ノ外書記一名若クハ二名ヲ命ヅ本會ノ雜務ヲ處辨セシム

第七條 委員ハ俸給ナシ但開會ノ地ヲ距ル三里以外ニ住スル者ニハ相當ノ旅費ヲ給シ又非職無給ノ者ニハ相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第八條 本會ハ少ナクモ毎月一回之ヲ開クモノトス但臨時又ハ至急ヲ要スル事件アル時ハ會長ノ招集ニ應ヅル之ヲ開キ又委員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クヲ得

第九條 本會ニ於テ議定スヘキ事件左ノ如シ

一 衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

二 府縣ニ於テ發行スヘキ衛生上ニ關スル布達ノ草案

三 府知事縣令ヨリ發セシ議案并ニ中央衛生會內務省衛生局及ヒ郡區町村衛生掛ノ尋問ニ係ル事項

第十條 本會ハ各郡區役所ヨリ府縣廳ヘ上申セル衛生上ノ諸報告等ヲ檢察スヘシ

第十一條 本會ハ該地方ニ實施スヘキ衛生事項ニ就キ其草案ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十二條 本會ハ該地方ノ衛生上ニ關スル實況ヲ檢察
スルカドシ擔當吏員ノ派出ヲ府知事縣令ニ建議スル
ヲ得

第十三條 本會ノ議事筆記ハ時々內務省ニ報告スヘシ
甲第五十九號 明治十三年五月三日

流行病豫防ノ爲メ毎町村或ハ聯合町村協議ノ上火葬並
埋葬場別紙手續書ニ照準シ可願出此旨布達候事
(別紙)

火葬場設立手續書

一 火葬場ハ平常用流行病用ト兼用スルモ其町村ノ便宜

タルヘシ

一 埋葬場ハ流行病用ノ分ノミ別ニ選定スヘシ

但其町村ニ於テ全ク火葬ノミヲ行フ習慣アルモノ
ハ選定セサルコトアルヘシ

一 火葬並埋葬場ハ飲用水ハ勿論都テ河流人家ニ隔タリ
タル地ヲ良トスト雖田離隔ニ過ルヤハ不便不少コ付
豫メ郡區役所ノ検査ヲ經テ選定スヘシ

一 火葬場ハ明治八年內務省乙第八十號達ノ趣モコレヲ
ト雖モ目下建築等ノ資金ニ堪ヘサルモノハ其地位
ノ略圖相添本廳ノ指揮ヲ受可シ

一設立願ハ左ノ書式ニ照準スヘシ

但從前許可ノ分ハ書式ニ照シ届出ヘシ

書式

火葬場設立願

從前許可ノ分ハ何年何月日許可ト書ス

地種名稱

一火葬場

幾多所

某郡區町村字某何番
坪數若干

但烟筒其他構造ノ有無

地種名稱

一埋葬場

幾多所

某郡區町村字某何番
坪數若干

共有
町村

某町
某村
某町
某村

人口若干

同
同
同

右之通選定仕候上ハ聯合町村地内於テ死亡候者ハ仮令
旅人トシテ無故障火葬可爲致候間御聞届相成度此段奉
願上候以上

某町村惣代

何

某

已下通常願伺文書式ニ同シ

甲第八十九號

明治十三年六月二十三日

本月三十日限、醫務取締相廢止候條此旨布達候事

甲第九十號

明治十三年六月二十三日

各町村衛生委員來ル七月一日ヨリ事務取扱フヘク此旨布達候事

但本文日限迄ニ衛生委員撰舉難行届町村ハ衛生委員兼務ノ戸長ニ於テ事務可取扱候事

甲第百五號

明治十三年七月五日

虎列刺病豫防取扱手續別冊之通相定候條此旨布達候事
(別冊)

虎列刺病豫防取扱手續

一 虎列刺病豫防法ハ明治十二年太政官第三十二號公布
ヲ遵守シ消毒法ハ明治十三年內務省衛生局第十三号
報告ニ依リ取扱フヘキハ勿論ナリト雖モ抑モ該病ノ
取扱上ニ至テハ諸官衙ニ關涉シ動モヌレハ或ハ所復
無用ノ手數ヲ煩ハシ殆ト取扱ノ順序ヲ紊ヌ恐レアレ
ハ更ニ各主務トスル處ノ大別ヲ別紙ニ舉ケ以テ其分
界ヲ定ム

郡區吏員取扱ノ部

第一條 各町村ニ虎列刺病患者アリシ旨戸長若クハ衛

生委員等ヨリ届出タル中ハ速ニ縣廳へ報告シ豫防傳
播セサル様尽カスヘシ

但シ該病全癒死亡ノ都度戸長衛生委員等ヨリ届出
タル中モ速ニ縣廳へ報告スヘシ

第二條 該病流行之兆アリ避病院又ハ假病室ヲ設置セ
ント各町村協議ヲ遂ク其場所及構造ノ畧圖ヲ添戸長
若クハ衛生委員ヨリ願書差出シタル中ハ一應調査之
上速ニ縣廳ニ進達スヘシ

第三條 避病院及假病室ヲ設置スル中ハ院内室内ノ細
則ヲ便宜撰定シ伺出ヘシ

第四條 部内ニ於テ該病ニ罹ル患者及死亡人員等ハ日
々郡區役所ノ門前又相當ノ場所ニ揭示スヘシ

第五條 外國郵便船等ヨリ發病者アル通知ヲ受ケタル
中ハ直ニ其場所ニ出張警察官吏戸長衛生委員等ト立
會處分ヌルヲアルヘシ

但事情繁雜ナル者ハ尤ニ至急縣廳ニ伺出ヘシ

第六條 赤貧之者該病ニ罹リ内外ノ交通ヲ絶テ營業差
止ムルニ至リ戸長若クハ衛生委員ヨリ其救恤ヲ願出
シ者ハ一應審査シ申由速ニ縣廳ニ開申スヘシ

第七條 豫防費ハ專ラ各町村ノ協議費ヲ以テ支辨スヘシ

中地ノト雖ハ協議費ニテ支ヘ得ハカラサルニヨリ地方税ヲ以テ支出アラシメテ戸長若クハ衛生委員ヨリ申出タルルルハ一應取調縣廳ニ伺出ヘシ

第八條 消毒藥等ハ戸長衛生委員ノ許ニ備付アル消毒藥等自然拂底セシテ以テ準備品拂下シ義ヲ郡區役所ニ願出タルルルハ速ニ拂下ヘシ

第九條 郡區役所ニ係ル金錢藥品ノ出納ハ明細帳記シ置キ他日精算ニ差支アル豫テ注意スヘシ

警察官吏取扱ノ部

第十條 各町村ニ虎列刺患者アリシ旨届出タルルルハ速

ニ該家ニ出張シ戸長若シクハ衛生委員ナシテ門戸ニ病名標ヲ貼付セシメ外人之往來物品ノ出入吐瀉汚穢物等取棄方ノ検査スヘシ尤モ病者全快死亡又ハ避病院ニ入リタル後ハ衛生委員ニ立會消毒法ノ施行ヲ検査シ病名標ヲ除却セシメ他人ノ交通ヲ自由ナラシム可シ

第十一條 該病患者死亡セシ旨戸長若クハ衛生委員ヨリ届出タルルルハ直ニ該家ニ出張消毒法ヲ行ハサレ死屍運搬ノ節ハ之ヲ監護シ夜中運送人ノ途中ニ於テ吐瀉物汚穢物等ヲ擲棄シ又衣服棺覆等ヲ脱取シテ密賣

スル弊等ヲ防クヘシ

但署内ニ患者表ヲ製シ置キ死亡全治共届出タル節
ハ無漏該表ニ記入シ以テ後日之參考ニ供スヘシ

第十二條 治療ハ専ラ各自信用ノ醫師ニ任ヌヘシ醫師
ヲ迎フルト能ハサル病家ノ外ハ警察官吏若シクハ衛
生委員ニ於テ醫師ヲ指名スルニ及ハス尤隠蔽ノ疑ヒ
アルモノハ警察官吏ニ於テ之ヲ檢案ヌヘシ

第十三條 内國郵便船等ヨリ發病者アル通知ヲ受ケタ
ルハ直ニ其場所ニ出張郡區吏員或ハ衛生委員等ト
立會處分スルヲアルヘシ

第十四條 病者アル家ハ止ムヲ得サル事故アルノ外ハ
内外ノ交通ヲ絶ツメン尤モ其家ニ數室アリテ家族ハ
勿論出入口等ニ至ル迄全ク別戸ノ如ク分隔スルト
得ルモノハ警察官吏衛生委員ニテ檢査シ其營業ヲ許
スヲアルヘシ

第十五條 旅籠屋或ハ路頭ニ於テ旅人發病セシ旨醫員
或ハ衛生委員ヨリ届出タルハ直ニ現場ニ出張他ニ
傳播セサル様豫防ニ注意シ該患者ヲ假病室若シクハ
避病院ヘ送致スル途中監護ヌヘシ

第十六條 囚人ハ普通ノ避病院ニ容ルヘカラヌ

第十七條 警察官吏ハ沿道町村ノ戸長浦役人等患者アル船舶入港ノ旨通知アルキハ直ニ現場ニ出張衛生委員立會船中患者十分ノ消毒法ヲ施行セシ後上陸セシメ荷物等ハ病毒ニ汚染セシ物ニシテ消毒法施行シ陸揚ヲ許スヘシ既ニ消毒シタル後ハ都テ船舶ヲ抑留スベカラズ

但健康証書ハ總テ交付スルニ不及

第十八條 死屍運搬ノ節蓋ハ「コレラ」ノ標記アル小旗夜ハ同斷之提灯ヲ用ヒサスヘシ
但小旗提灯トモ有合ノ品ニ張紙等ヲナシ「コレラ」

病タルヲ判然スルモノオホキテハ不苦モノトス

第十九條 死者及吐瀉物ノ運搬ハ傳染シ易キ病質ナルヲ以テ可成人家稠密ノ地ハ避ケサシムル様務ヲ注意スヘシ

第二十條 第三十二條ノ場合ニ於テ戸長若シハ衛生委員ヨリ立會ヲ乞フキハ直ニ現場ニ出張檢察スヘシ

戸長及衛生委員取扱ノ部

第三十一條 部内ニ虎列拉病患者アリシ旨醫員ヨリ届出タルキハ直ニ郡區役所及最寄所轄警察本分署ノ内ニ報告シ速ニ該家ニ附キ家族者ニ豫防ノ主意及傳播セ

サレ様懇篤教諭シ而シテ其病況并治亡トモ時々郡區
役所ニ報告スヘシ

第廿二條 較病流行ノ兆アルニ際シ豫メ町村協議ヲ以
テ看病人并死體及排泄物運搬人夫ヲ定メ置キ臨時ニ
差支サル様注意スヘシ

但看病人ハ溫柔ヨシテ親切ナル者ヲ撰ヒ決シテ粗
暴ナル者ヲ用ユヘカラヌ

第廿三條 患者ノ家屋廣大ナリト雖モ鰥寡孤獨或ハ一
家全患忽地看病人ニ差問ユルハ豫テ定置キタル看
病人ヲ使用セシムヘシ

第廿四條 衛生委員ハ其近傍ニ虎列拉病發見ノ報ヲ受
ケルハ豫メ掃除ノ注意飲食ノ攝生等豫防ノ方法ヲ
町村ニ説諭シ其侵入ノ後ニ及ヒテハ病家ニ親接シテ
病者之引分方吐瀉物ノ始末及ヒ消毒ノ方法等懇切ニ
周旋スヘシ

第廿五條 吐瀉物焼却埋却場ハ豫メ其町村或ハ聯合町
村ノ協議ヲ以テ撰定スヘシ

但本條ノ場所ハ川畔路傍田圃ノ側ニ設クヘカラヌ
第廿六條 治療ハ專ラ各自信用ノ醫師ニ任スヘシ醫師
ヲ迎フル能ハサル病家ノ外ハ衛生委員若クハ警察

官吏ニ於テ醫師ヲ指名スルコト及ハス尤モ隱蔽ノ疑アルモノハ其事由ヲ警察官ニ通知スヘシ

第二十七條 内國郵便船等ヨリ發病者アル通知ヲ受ケタルルキハ直ニ警察官吏郡區吏ニ通知シ現場ニ出張立會處分スルヲアルヘシ

第二十八條 患者ノ自宅狹隘ニシテ傳染ノ憂ヒアル者ハ患者ヲ假病室ニ引移スカ又ハ家族ノ中看病スヘキ者ヲ除キ餘ハ他ノ家屋ヘ移ス等家族ノ情願ト衛生委員ノ見込ニ依リ便宜取扱フヘシト雖モ傳染ノ憂ヒ且療養ニ差支ナキ者ハ強テ入室セシムルコト及ハス

但健康者ヲ他ヘ移スキハ十分ノ消毒法ヲ行フヘシ

第二十九條 最初假病室ニ入ルモノト雖モ申者増加シ病勢漸次猛烈到底該所ノ治療ニ行キ届カサルト見込タルルキハ其事由郡區長ヲ經テ縣廳ニ且狀スヘシ

第三十條 病者アル家ハ已ムテ得サル事故アルノ外ハ内外ノ交通ヲ絶ツヘシ尤モ其家ニ數室アリテ家族ハ勿論出入口等ニ至ル迄全ク別戸ノ如ク分隔スルヲ得ルモノハ警察官吏衛生委員ニテ検査シ其營業ヲ許スヲアルヘシ

第三十一條 病者假室等ニ送リタル後ハ警察官立會充

分消毒法ヲ行ヒ速ニ交通ヲ許スヘシ

第三十二條 病家ニテ萬一己ニテ得サル事故アリテ看病人其他病者ニ親接セル者ノ他出テ許スルハ必ス其身體ヲ洗浴シ衣服ヲ着換ヘ且ツ其携帯品ニ注意セシムヘシ

但本文ノ場合ニ至リテハ警察官ト立會スヘシ

第三十三條 病室内ニアル所ノ器具類ハ患者ニ必用ナル者ノ外最初消毒法ヲ行ヒ之ヲ取除クヘシ

第三十四條 病家ハ空氣ノ流通ヲ要スルヲ以テ窓戶ヲ閉鎖セシムルハ宜シカラズ

第三十五條 該病ニ罹リ死亡スルモノハ豫テ定メアル

場所ニ火葬若クハ埋葬スヘシ

但消毒ハ明治十三年内務省衛生局第十三號報告ニ

據ルヘシ

第三十六條 旅籠屋或ハ路頭ニ於テ旅人發病セシ旨醫員其他ヨリ届出タル中ハ直ニ警察官吏ニ通知シ現場ニ出張豫防傳播セサル様注意運搬人ヲ指揮シ豫テ定ムル所ノ町村避病院若シクハ假病室ニ送ルヘシ

第三十七條 該病流行之兆アリ避病院又ハ假病室ヲ設置セント各町村協議ヲ遂ケタル中ハ其場所及構造ノ

略圖ヲ添へ願書郡區役所ニ差出スヘシ

第三十八條 避病院ノ位置ヲ選定スルニハ人家ニ接近セズ運搬ノ便ヲ缺カサル地ニテ井泉河流ノ近傍或ハ往來多キ路傍等ニ設クヘカラス又墓地舊燒場等ノ如キハ之ヲ凡ロサルト宜シトス

第三十九條 完全之避病院ヲ構造スルニハ其牀ヲ高クシ壁ニ代フルニ板羽目ヲ用ヒ洗滌ニ便シ急ニ供スル假室ハ板葺苔葺ヲ用ユヘシ

第四十條 避病院ハ重症輕症及回復期ノ病者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ四疊三人ヲ置クヲ常トシ狹キモ二疊

一人ニ過クヘカラス

但此他醫員詰所事務所看病人休息所等便宜之ヲ設クヘシ

第四十一條 完全ノ避病院ヲ構造スルニハ清淨ナル死屍室ヲ設ク患者死亡シタル中直ニ死室ニ移シ決シテ病室ニ置クヘカラス

但死室ハ近親ノ來吊スルカ爲メニ狹隘ナラサル餘地ヲ備ヘ置クヘシ

第四十二條 人家稀疎ノ村落ハ特ニ避病院ヲ設クルヲ要セズ若シ相當ノ明屋等アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第四十三條 避病院ニ從事スル者ハ醫師看病人掃除人等ニ至ル迄都テ懇切ヲ旨トシ病者ハ勿論其近親見舞ノ者等ニ對シテモ倨傲粗忽ヲ取扱チナヌヘカラサル様注意スヘシ

第四十四條 完全ノ避病院ハ看病人ノ員數重症ノ病者二人ニ就キ一人ヲ附シテ晝夜交代セシメ輕症ノ者ヘハ四人ニ一人ヲ附シテ晝夜交代セシメ其快期ニ趣ク者ニハ大人コ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌スヘシ

第四十五條 避病院ノ廣狹ハ大約先ツ人口千人ニ病者

一人ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムルヲ良トス例ヘハ人口六千人ノ町村ナレハ病者六人分ニテ每人二坪ト見積リ十二坪ノ病室ヲ要スルノ類ナリ尤モ流行之勢コヨリテハ建坪ヲ増加スルヲ得ルノ餘地ヲ見積リ置クヘシ

第四十六條 病室ハ別ニ掃除人ヲ設ケ置キ毎日一二次清潔ニ之ヲ洒掃シ決シテ之ヲ看病人ニ委スヘカラス

第四十七條 病者ノ親族又ハ別段ノ交誼アルモノヨリ看病ヲ爲サンコトヲ望ムルハ之ヲ許ス可シ

但親戚ノ見舞ヲ許スモノハ室内ニテ一切飲食ヲ禁シ吐瀉物ニ接觸セサル様注意スヘシ

第四十八條 病者ノ避病院又ハ假病室ニ入り、容體危篤ニ陥リタル旨醫員其他ヨリ申出タルハ速ニ其由家族ニ通知スヘシ

第四十九條 全上死亡スルハ急使ヲ以テ速ニ其家族ニ通知シ成ルヘク入棺セサル前ニ於テ其死體ヲ示スヘシ尤モ見苦シカラサル様ニ其設ヲ爲スヘシ但通知後十二時間ヲ過ルハ之ヲ棺ニ收メテ相當ノ處分ヲナスヘシ

第五十條 死屍ハ可成他ノ病者及快期ニ趣ク者ノ目ニ觸レサラシムル様注意スヘシ

第五十一條 入院病者ノ携帶品アルハ消毒法ヲ行ヒ其品目ヲ帳記シ退院ノ節之ヲ本人又ハ親戚ヘ引渡ヌ可シ

第五十二條 避病院假病室等ニハ行水ノ用意ヲナシ見舞ノ者等出院ノキハ其身體ヲ洗淨セシメ衣服ハ簡便ノ薰蒸法ヲ行フヘシ

第五十三條 看病人ノ被服ハ時々煮沸洗濯シテ交換服用セシムルヲ宜シトス

第五十四條 病者ノ全快ヲ証シテ退院ヲ許スハ主トシテ院長若クハ從事スル醫師ノ指圖ニ依ルヘシ尤モ全

快ノ証書ハ下附スルニ及ハサルヘシ

第五十五條 病者全快退院ノ節ハ必ス衣服ヲ着換ヘ其舊衣ハ消毒法ヲ行ヒ其甚シク汚染シタルモノハ燒棄スヘシ

第五十六條 衛生委員等ニテ病者アル家ニ臨ミテ檢査スルノ際其家人ニ於テ汚染シタル衣類物具ヲ惜ミ之レヲ隱蔽シ或ハ交換スルノ弊ナキ様務メテ査察スヘシ

第五十七條 金屬製陶磁漆器若クハ木製ノ物具ハ消毒法ヲ行ヒ得ヘキヲ以テ燒却スルニ及ハス故ニ燒却ス

ル者ハ專ラ病者ニ接シタル夜具衣服及ヒ疊等ノ甚ク汚染シタル物ニ汚染シ消毒法ヲ行フノ後ト雖モ再ヒ其用ニ供スヘカラサルモノニ止ルヘシ

第五十八條 貧困者ノ物品ニテ燒棄スヘキモノハ之ヲ買上ケルカ或ハ代ノ品ヲ給スル等便宜見込テ立テ郡區長ヲ經テ縣廳ニ伺出ツヘシ

第五十九條 死者及吐瀉物ノ運搬ハ傳染ノ易キ病質ナルヲ以テ可成人家稠密ノ地ハ避ケサシムル様務ヲ注意スヘシ

第六十條 死屍運搬ノ節畫ハ「コレヲ」ノ標記アル小旗夜

ハ全上ノ堤灯ヲ製シ用ユル

但小旗提灯トモ有合ノ品ニ張紙ヲナシ「コレヲ」病ダ
ルヲ判然スルニオキテハ不苦モノトス

第六十一條 衛生委員ハ流行地ヨリ來ル處之船舶ノ檢
査ニ從事セシムルヲ以テ來船スルルハ速ニ其旨警察
官吏ニ通知シ現場ニ出張船中患者アリシハ限リ乘
船人ハ悉皆十分ノ消毒法ヲ施行セシメ後上陸セシメ荷
物等ハ病毒ニ汚染セシ物ニノミ消毒法ヲ施行シ陸揚
ヲ許ヌヘシ既ニ消毒シタル後ハ都テ船舶ヲ抑留スヘ
カラス

但健康証書ハ總テ交付スルニ不及

第六十二條 陸路運輸之荷物ハ病毒汚穢ノ顯証アルニ
非ラサレハ總テ消毒法施行ニ及ハス

第六十三條 虎列刺病屍ハ精々説諭シテ火葬ニセシム
ルヲ良トス

第六十四條 死屍焼却後ノ遺骨ハ便宜之器ニ收メ住所
姓名ヲ記載シ遺族ニ交付スヘシ

第六十五條 虎列刺病消毒ノ後ハ其燒場又ハ埋葬場ニ
於テ神事佛事ヲ營ハ妨ケナシ

但燒後ノ遺骨ハ其家ニテ葬儀ヲ行フヲ得ヘシ

第六十六條 石炭酸ハ戸長役場衛生委員ノ許ニ協議ヲ以テ豫備シ置キ相當代價ヲ以テ拂下方ノ手順ヲナスヘシ

但貧困者ニハ無代ニテ施與スル方法ヲ設クヘシ

第六十七條 豫防費ハ專ラ其町村之協議費ヲ以テ支辨スヘシト雖モ協議費ヲ以テ支ヘ得ヘカラサルモハ地方稅ヨリ支出アラソトテ郡區長ニ申立ツヘシ

第六十八條 消毒藥等拂底ノ節ハ準備品モ有之ニ付郡區役所ニ申立拂下ヲ乞フヘシ

第六十九條 各町村協議費及地方稅モ金錢藥品等ノ遺

拂ハ明細帳記シ置キ他日精算ニ支ナキ様注意スヘシ

醫師取扱ノ部

第七十條 醫師ハ虎列拉病患者ト看認ルモハ直ニ其町村ノ衛生委員ニ通知スル勿論ナリト雖モ該病流行ノ際ニ於テハ吐瀉アル病ハ總シテ衛生委員ニ申出ヘシ

第七十一條 戸長若クハ衛生委員ヨリ避病院或ハ假病室ヘ出張ヲ倚頼シ及病者アル家ヨリ往診ヲ乞フモハ速ニ承諾スヘシ

第七十二條 醫師ノ届出ハ最緊要ノ事ニシテ之ヲ遲延スルモハ病毒蔓延ノ端ヲ開クノ恐アレハ速ニ通知ス

ルヲ第一ノ義務トヌ尤モ實地ノ都合ニヨリ遅延スル
モ廿四時間ヲ過キ規則ニ背クナカレ

第七十三條 醫師ハ内國郵便船其他ニオキテ發病者ア
ル旨ヲ以テ衛生委員或ハ警察官吏郡區吏員等ヨリ臨
時出張ノ義命シタルキハ速ニ之ニ應シ出張治療ノ手
順ヲナスヘシ

第七十四條 避病院假病室等ニ從事スル醫師ハ都テ懇
切ヲ旨トシ病者ハ勿論其近親見舞ノ者等ニ對シ倨傲
粗忽ノ取扱ヲナスヘカラヌ

第七十五條 普通病院ニハ決シテ虎列刺病者ヲ容ルヘ

カヲヌ

但傳染病室ノ設ケアルモノハ此限ニ非ラヌ

第七十六條 病者ノ容體若シ危篤ニ陥ルキハ速ニ其由
ヲ衛生委員ニ通知ヌヘシ

第七十七條 避病院ニ從事スル者病者ノ全快ヲ証シ退
院退室ヲ命スルキハ衛生委員ヘ報告ヌヘシ

甲第百七號

明治十三年七月八日

本年當縣甲第四十號布達町村衛生委員事務取扱心得書
左之進追加候條此旨布達候事

第廿六條 衛生委員於テ連印及添書ヌ可キ願何届書其

目左ノ如シ

- 醫術開廢業願及轉籍届
- 種痘術開廢業願
- 藥舖開廢業願及轉籍届
- 賣藥驗査願
- 賣藥請賣行商開廢業及鑑札書替願
- 種痘人員表
- 死亡届
- 貧困者施療願
- 流行病届

脚氣患者明細表

火葬埋葬場開廢場願

鍼灸術及産婆開廢業願

衛生上ニ關スル一切ノ願伺届

第十七條 衛生委員連印書式左ノ如シ

衛生委員兼務ノ戸長於テ直ニ受付開申ス可キ分

某町村戸長兼衛生委員

姓 名 印

専務ノ衛生委員於テ受付開申ス可キ分

某町村衛生委員

姓 名 印
某町村戸長
姓 名 印

第十八條 衛生委員於其町村内醫師藥舖賣藥者及鍼灸術產婆開業者姓名簿ヲ備置ヘキ事

甲第百九號

明治十三年七月十四日

本年當縣甲第五十九號布達中左ノ通改正候條此旨布達候事

第二項改正 但書從前ノ通

一埋葬場ハ流行病用ノミヲ選ビ願書ハ略圖ヲ添差出ス

第五項 但書改正

但火葬場ニ限リ從前許可ノ分ハ舊式ニ照シ届出ヘ

甲第百十四號

明治十三年七月二十一日

本年七月當縣甲第百五號布達中虎列刺病豫防取扱手續初項左ノ通リ改正候條此旨布達候事

初 項

一虎列刺病豫防法ハ明治十二年太政官第三十二號公布ノ通守シトアルナリ明治十三年太政官第三十四號公布

ヲ遵守シテ改ム

甲第百廿六號

明治十三年八月十三日

特旨ヲ以テ内庫ノ金千圓衛生費トシテ下賜候旨本年當
縣甲第百三十八號ヲ以テ布達候處右金額ハ地方衛生會決
議ニ依リ惡疫豫防費資本金トシテ利子ヲ加ヘ蓄積候條
此旨布達候事

但蓄積方法及決算報告等ハ追テ地方衛生會ヨリ郡區
役所ヘ通知スヘシ

甲第百三拾五號

明治十三年八月二十七日

明治十年四月本縣甲第百七十八號ヲ以テ賣藥營業者及請

賣者看板下付ノ義及布達置候本月三十一日限リ相廢止
候條九月一日以後出願許可ヲ得候者ハ明治十年四月本
縣甲第百六十七號布達別紙内務省乙第百三拾貳號達雛形ニ
照準シ各自調製可致最モ從前本廳ヨリ下渡候看板所持
ノ者廢業ノ節ハ郡區役所於テ消印ヲ可受儀ト可相心得
此旨布達候事

甲第百三拾六號

明治十三年八月三十日

本年七月當縣甲第百七號布達町村衛生委員事務取扱心得
追加第貳拾六條第貳拾七條衛生委員連書ヲ與書ト改正
候條此旨布達候事

甲第百四拾四號

明治十三年九月十一日

妊娠四ヶ月以上ニシテ流産セシ者ハ自今醫師又ハ産婆
於テ左ノ書式ニ倣ヒ届書貳通ヲ製シ家人ニ付シ其時々
町村衛生委員ヘ可差出此旨布達候事
但醫師又ハ産婆ノ手ヲ經ヌ流産候節ハ書式ニ倣ヒ其
理由ヲ届出ヘシ

流産御届

郡區村町番地

族籍職業何某妻妾(私生ハ長次女
姉妹或何々)

某

一何月妊娠

一何月何日流産

年 齡

右之通及御届候也

郡區村町番地

醫師
産婆

何 某 印

郡區長宛

附言滿十ヶ月ト雖モ死胎分娩ノモノハ流産ノ部ニ入
シ又出産後一旦呼吸ヲ死セシ者ハ出産届ヲ爲シ更ニ
死亡届ヲ差出スモノト心得ヘシ

甲第百四十八號

明治十三年九月十三日

自今賣藥營業者發賣ノ方劑禁止或ハ廢業候節ハ其請賣及行商者ノ住所姓名并藥名番號等詳細左ノ書式ニ照準
 ヲ管内外ヲ區分シ可差出且該營業人ニ直ニ請賣及行商者ニ其旨ヲ通知可致此旨布達候事
 但請賣行商者無之ハ其旨可申出候事

(書式)

賣藥請賣及行商者人員御届

(管内ノ部)

番號 本縣下何郡區何村町番地
 一藥名 請賣人 何 某

同 全 全 上
 一全 右請賣何人

同 全 行商人 全 上
 一全

同 全 全 上
 一全

右行商何人
 (管外ノ部)

番號 何府縣何郡區何村町番地

一藥名	請賣人	何	某
同	全		
一全	全	全	上
右請賣何人			
同	全		
一全	行商人	全	上
同	全		
一全	全	全	上
右行商何人			
合			
行商何人			

右之通曉也

郡區町番地

年 月 日

營業人 姓

名 印

甲第百五十二號

明治十三年九月廿四日

明治十年當縣甲第百四十三號同十一年甲第九十五號布
 建公立愛知病院并岡崎支病院患者心得規則別冊之通改
 正來十月一日施行候錄此旨布達候事

公立病院患者心得規則

入院患者心得

第一條 凡ソ患者入院スルモノハ證人相立テ族籍住所
姓名年齢等ヲ詳記セ及ヒ入費等百事引受クヘキ旨ノ
證書ヲ出ヌベシ

但時宜ニ依リ三日間ヲ猶豫スヘシ然レモ受人ハ其
土地ノ者ニ限ルベシ

書式

患者引受之證

用紙半紙野白適宜一通

何府縣區何町何丁目番地

(何ノ姓 父母兄弟親男女
同居取ハ寄留)

華士族平民

姓

年

名

齡

右之者入院治療中ハ御規則堅ク爲相守本人ニ係ル一切
ノ事件ハ私引受可申依テ證書差出候也

何府縣何郡區何町何番地

華士族平民

引受人 姓 名 印

年 月 日

公立何病院

御 中

第二條 何的ノ患者ヲ論セス教師或ハ診察醫ノ前診ヲ

經ヌノ病室ニ入ルヲ得ヌ

第三條 入院患者ハ教師或ハ診察醫ノ承諾ヲ得ヌシテ
猥リニ退院スルヲ得ヌ該患者ノ處方錄ニ教師又ハ診
察醫檢印ヲ捺シ退院承諾ノ證トス

第四條 入院患者ハ教師或ハ診察醫毎朝回診ス尤教師
或ハ醫員ノ示スヲハ堅ク相守ルベシ

但重症患者ハ正午或ハ夕刻ニモ回診ス尙危篤ノ者
ニ在テハ此限ニ非ヌ

第五條 必用ノ諸品ハ凡テ病室ニ附屬スルト雖モ若シ
好ニ應シ外ヨリ携ヘント欲スル時ハ醫員其物品ノ有

害無害ヲ検査スヘシ

第六條 飲食ヲ外ヨリ携ヘ來ルルハ教師或ハ醫員ノ檢
査ヲ經テ食ヌヘシ

第七條 看病人ハ病院ヨリ附添ハルルハ雖モ親戚等
ニテ介抱セント欲スルルハ醫員ノ承諾ヲ得ヘシ

第八條 品行ノ不正ナルハ勿論病室ニテ放歌シ若クハ
大聲ヲ發スルヲ禁ヌ

第九條 入院患者諸用アリテ外出スルカ或ハ園圃ニ遊
遊シ又ハ他患者室ニ入ルニハ必ス醫員ノ承諾ヲ得ヘ
シ

但外出スル者歸院セシキハ直ニ醫員ニ届出可シ
第十條 傳染病患者ハ猥リニ自室ヲ出テ或ハ他患者ノ
室ニ入ルヲ嚴禁トス

第十一條 室内患者男女雜居スルヲ得ヌ

但親子兄弟姉妹夫婦ノ如キハ此限ニ非ヌ

第十二條 患者ハ院中所屬ノ物品ヲ紛失毀損スヘカ
ラヌ若シ紛失毀損スルキハ其修覆料ヲ收メ或ハ代價ヲ
價ハシムルヲ得ヘシ

第十三條 他ヨリ患者ヲ見舞ント欲スル者ソレハ先ツ
醫員ノ承諾ヲ得ヘシ

但極メテ緊要ノ事ヲ除クノ外夜間ノ見舞ヲ禁ヌ

第十四條 見舞人ハ病室内ニ於テ大聲ヲ發シ口論ヲナ
ス等其他凡テ品行不正ニ涉ル所業ヲ禁ヌ

第十五條 入院中食料并ニ藥價等毎月十五日三十日兩
度ニ會計係ヘ差出スヘシ

但退院スルキハ本條ニ關セヌ其退院ノ日ヲ以テ勘
定相立ツ可シ

第十六條 入院料ヲ三等ニ分テ食物浴湯炭油等ヲ初メ
左ニ列載スル器具ヲ供給スヘシ

但藥價手術料其他治療上ニ需用ノ物品代價ハ總テ

入院料ノ外トス

病室等差

上等 一室一人詰

一日一人金三十拾五錢

内食料
雜費

金貳拾五錢
金拾錢

貸具

寢臺

一脚

椅子

一脚

蒲團

三枚
表裏
木綿

藥箱

一枚

但夏季ハ一枚ヲ減シ蚊帳一ト壘シテ加フ

衣 柝
行 燈
煙 草 盆
土 瓶
火 鉢
瓶 棚
炭 斗
藥 吞
湯 吞
盆

一脚
一挺
一ツ
一ツ
一ツ
一ツ
一ツ
一ツ
一ツ
一枚

五徳
火箸付

盥敷付

中等

一室二人詰

一日一人金貳拾貳錢

內食料
雜費

金拾七錢
金五錢

貸具

寢臺

一脚

椅子

一脚

蒲團

三枚
木表
綿裏

但書上等同斷

藥蒲團

一枚

瓶棚

一ツ

煙草盆

一ツ

藥吞

此外火鉢行燈ノ類一室兼用

下等

一室雜居

一日一人金拾五錢

內食料
雜費

金拾三錢
金貳錢

貸具

寢臺

一脚

蒲團

三枚
木表
綿裏

藪蒲團

一枚

此外中等ノ通行燈ノ類一室兼用

第十七條

入院料第十六條ノ通定ト雖米價等ノ高低

ニ從ヒ増減スルヲアルヘシ

但患者ノ望ミ由リ初メ上等ニ入院シ后中等或ハ
下等ニ轉スルモ妨ケナシトス

第十八條 病症ニ由リ滋養物ヲ要スルモノ例ハハ滋養
液腸牛乳肉蒸汁ノ如キハ原價ヲ拂ハシム

但施療患者ハ此限ニアラス

第十九條 男女ヲ論セス介抱人ヲ別ニ雇ヒ度モノハ醫
員ノ承諾ヲ得ヘシ

但其雇料ハ會計係ハ談合スヘシ

第二十條 喫飯セサルモノハ其度數ニ應ヒ食費減省ス

ヘシ

但喫飯セサル者ハ食事三^時前膳部持配リノモノハ
通知スヘシ若通知ヲ怠タルハ縦令食用セス該
價ヲ弁スヘシ

第二十一條 喫飯ノ時限朝ハ七時晝ハ十二時夕ハ六時
ル可シ

但日ノ長短ニ因リ朝夕ノ時限ヲ伸縮スルヲアルヘ
シ

第二十二條 持參ノ物品ハ病床ニ必用ノ外封印ノ上會計
係へ預ケ置ク可シ尤モ預リノ證書ヲ交附スルモノト

ス

但不時ニ入用アルカ又ハ退院スルカハ該係へ申出立合フ上受渡シイマス可シ

第廿三條 入院中他ノ醫療ヲ受ルハ「勿論賣藥等用ユルハ嚴禁タルヘ」

但雞肉ケレ、コンデンスミルク、等ノ如キ滋養賣品ハ此限ニアラス

第廿四條 室内ニ於テ割烹及ヒ不潔ノ事ヲナスヲ禁ヌ附添人賄ハ行廚ヲ携ヘ又ハ病人同様(上中等或ハ下等)ノ賄ヲ望ムモノハ其意ニ任スヘシ

但夜具ノ類ノミ借用致度モノハ院中ノ都合ニ由リ左ノ割合ヲ以テ貸與スルコトアルヘシ

- 上等蒲團 一枚ニ付金貳錢
- 中等同 同 金七厘
- 下等同 同 金四厘
- 蚊帳 一垂ニ付一日金壹錢

往診患者心得

第一條 往診ハ事故アリテ來院スルコト能ハサル者ニ限ル然レモ急發症ノ外ハ即刻其請求ニ應ジ難キコトアリ

但一里以外之往診ハ診察醫等ノ都合ニ因リ全ク其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第二條 診察ノ上病院ノ藥劑ヲ請求スルハ方箋ヲ與ヘ藥價ヲ收ムル等外來患者ニ於テルト同シ

第三條 往診ヲ請フハ居所姓名職業年齡ハ勿論病氣ノ容休ヲ心得タルモノヲシテ申出ヘシ容休ノ如キハ可成的詳細ヲ要ス醫師ニ於テハ藥劑器械等持參ノ用意アレハナリ

第四條 醫ノ姓名ヲ指シ往診ヲ請フモ妨ケナシトス該醫差支ナキニ於テハ其請ニ應スヘシ

但差支アルハ他ノ醫員ヲシテ往診セシムルコトアルヘシ

第五條 往診ハ教師又ハ診察醫タルハシト雖モ病況ニ由リ看護醫ヲシテ代診セシムルコトアルヘシ

但往診料ハ差出ニ及バスト雖モ乘車賃ハ往復トモ病家ニ於テ辨スヘシ

第六條 藥價並ニ手術料ハ定則ノ通り病院ニ拂フヘシ外來患者心得書

第七條 外來患者ハ毎朝八時ヨリ正午十二時迄ニ(土曜日ハ十一時迄)來院シ玄關番へ申出來院ノ順序ヲ以テ

番號札ヲ受取リ溜所ニ扣ユヘシ尤着到ノ順序ヲ以テ
診察ス

但急症患者ハ此限ニアラス

第二條 着順ニ從ヒ患者ヲ診察所へ誘ヒ教師又ハ院長
之ヲ診察シ且病症ニ由リ入院又ハ手術ヲ要スルハ
先醫員ヲシテ之ヲ示談セシム

第三條 教師院長ノ診察ヲ待タズ診察醫ノ診斷ヲ受ケ
歸宅セント欲スルモノハ其望ミニ任スベシ

第四條 教師又ハ院長ノ出勤前危篤ノ患者來テ至急診
察ヲ要スルハ診察醫之ヲ診シ藥劑ヲ與フルコトアル

ヘシ

但教師及ヒ院長不出又ハ差支アル中ハ診察醫代理
スヘシ

第五條 診察時限

（從五月十五日 每日午前九時ヨリ
至九月十五日 午後二時マテ）
（從九月十六日 每日午前十時ヨリ
至五月十四日 午後三時マテ）

祭日及ヒ日曜日ハ休業ノコト
但時季ニ從ヒ時間ヲ伸縮スル中ハ患者溜リニ告示
スヘシ

第六條 初診ノ節姓名等ヲ記セシ木札ヲ相渡スヘシ續

テ來院シ若クハ藥劑ヲ請求ニ來ルルハ必ス此札ヲ携
フヘシ

但診察ヲ受ケテ後方箋ト名札ヲ會計係ヘ示シ藥價
ヲ拂ヒ後藥局ニ到リ藥劑ヲ乞フヘシ

第七條 藥瓶ノ類ヲ携ヘサルモノハ定價ヲ以テ拂渡ス
ヘシ

第八條 藥劑請求ニ來ルモノハ早朝ヨリ日没マテテ限
リトス

但急症及ロ往診ノキハ此限ニアラス
第九條 傳染病者ハ別室ニ扣ヘシムヘシ

第十條 藥價ハ左ノ定則ニ因リ即時相拂フヘシ若差支
アリテ引受人ヲ立証書差出ヌキハ日數十五日ヲ限リ
延期スヘシ

但引受人ハ管内人ニ限ル
藥價定則

内服藥 一日分 金五錢

但滿十年以下ノ者ハ金三錢トス

外用藥 一日分 金三錢

點眼藥 一日分 金壹錢五厘

頓服藥 左ノ如ク三種ニ區別ス

(天) 金拾五錢

(地) 金五錢

(人) 金壹錢五厘

但格外高價ノ藥品ハ此限ニアラス

第十一條 管内人ハ診察料ヲ收メス外科手術ヲ施スモ
ノハ管内外ヲ問ハス其術ノ難易及ヒ裝置ノ大小ニ準
ヰ三圓ヨリ多カラス五錢ヨリ少カラサル謝金ヲ收ム
ヘシ

第十二條 他管人ハ寄留人初診ノ際診察料三拾錢ヲ收メ
其証券ヲ相渡シ該券ニテ日數五十日間診察ヲ請ル

ヲ得ヘシ

但日數五十日毎ニ診察料ヲ收メ更ニ証券ヲ相渡ス
ヘシ

第十三條 貴重手術ヲ施スハ本人ハ勿論其親戚等承
諾ノ証券ヲ出サシメ之ヲ施スヘシ

但書式ハ院内一定ノ文例アルヲ以テ其都度之ヲ示
スヘシ

第十四條 診察中時刻移リ喫飯致シ度者左之二等ニ準
シ代價ヲ差出ヰ玄關番又ハ小使へ申出ツヘシ

食料定價

上等 一度分 金五錢

下等 全 金三錢五厘

第十四條 管内ノ者ニ限リ赤貧ニシテ藥價等自辨シ難キモノハ左之書式ニ準テ願書ヲ所戶長ニ出シ戶長ニ於テハ身許ヲ檢査シ相違無キハ其願書ヲ病院ニ差出サシムヘシ

但入院スルモノハ食料自辨タルヘシ

貧窮患者施療願 用紙半紙野二通

何郡區町村番地

(何ノ誰父母兄弟幾男女或ハ何々)

華士族平民

何ノ誰

年 齡

私儀或ハ(私何々)疾病ニ罹リ候處赤貧ニシテ治療不行届且ツ扶助可致親戚モ無之候間御施療被下度別紙醫師診斷書未ッ治療ヲ受ザルモノハ之ヲ除ク相添此段相願候也

右(父母兄弟)或ハ何々

年 月 日 姓 名 印

公立何病院

御 中

右之通相違無之候也

右町村戸長

姓名印

甲第百六十八號

明治十三年十月十一日

賣藥營業並請賣行商願書用紙之儀ハ美濃紙ヲ用來候處
自今野半紙相用候_ニ不苦候條此旨布達候事

甲第百七十八號

明治十三年十月二十二日

明治十一年_{七月}當縣甲第百廿六號布達鍼灸術取締規則中
第十一條第十二條ハ自今删除候條此旨布達候事

甲第百八拾六號

明治十三年十一月十日

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ヨリ死ヲ致ス者有之節
ハ其毒物ノ品名並中毒ノ症狀等取調毒物ノ現品相添可
届出自昨十二年當縣甲第四號ヲ以テ及布達置候處自今
中毒死ニ至ラサル分ト雖モ右同様可届出且前顯毒物品
ノ義ハ物質ニ因リ腐敗セサル様「アルコール」又「ハグ」
スリン」ニ浸漬シ可差出此旨布達候事

但本文飲食シテヨリ中毒症ヲ發セシ時間並_{死亡迄ノ時}
間ヲ記_シ或ハ慢性症ナル_ト記入差出スベシ

甲第百九十六號

明治十三年十二月六日

內務省衛生局ヨリ照會ニ因リ脚氣病患者表調査ノ儀ニ

付昨十二年當縣乙第百三十五號ヲ以相違候處來ル十四
年一月ヨリ別表雛形ノ通改正候旨全局ヨリ照會有之候
條有ニ因リ每半年ニ區分製表ノ一月七月十日限、郡區
役所ヲ經テ可差出此旨醫術開業ノ者ヘ布達候事

甲第二百十號

明治十三年十二月二十七日

埋葬火葬規則別紙之通相定來ル明治十四年二月一日
施行候條此旨布達候事

(別紙)

埋葬火葬規則

第一條

埋葬火葬ハ許可ノ場所ニ於テシテ他ノ場所ヘ葬ルコトヲ許
サズ

第二條

火葬ハ成ルヘク夜間ニ執行スヘシ

但流行病アルハ此限ニ非ス

第三條

死亡者アルハ死亡届書本年當縣甲第二百十一號布達ノ届書ニテ戸籍上ニ關スル届ニ非ス町村衛生委員へ差出シ埋葬若シハ火葬承認證ヲ請求スヘシ衛生委員於テハ死亡届書ヲ檢シ第一號雛形ノ承認證ヲ附與スヘシ

第四條

埋葬若クハ火葬承認證認ハ死者ノ家人ヨリ其葬儀ヲ取扱フ司葬者ニ渡スヘシ司葬者ニ於テハ第一號雛形ニ準シ該書ノ裡面ニ筆記シ其都度證書面記名ノ衛生委員へ送付

スヘシ

第五條

司葬者(神官僧侶及教道職)ハ承認證ナキ死屍ノ葬儀執行スルヲ許サス

第六條

町村衛生委員ニ於テハ死亡届ト司葬者ヨリ差出ス承認證トヲ照査シ每一ヶ月分取纏メ翌月十日迄ニ郡區役所へ差出スヘシ

第七條

郡區役所ニ於テハ前條死亡届ト承認證トヲ審査シ第二

號郡區ノ每半年表ヲ製シ二月八月廿日限リ縣廳ヘ差出
スヘシ

第八條

承認證ハ郡區役所ニ於テ調製シ豫メ町村衛生委員ヘ頒
布スヘシ

但費用ハ原價ヲ以テ請求者ヨリ取立又ハ町村衛生費
ヨリ支出スル等便宜方法ヲ設クヘシ

第壹號

竪四寸五分

横五寸五分

何郡區番地
(父母兄弟姉妹或ハ何カ)
 姓名
 明治何年何月何日死亡 年齢
 表面
 葬承認証
 支所衛生委員
 姓名印

何月何日埋葬
 何郡區番地或ハ何社神宮
 敬請職
 姓名印
 裏面

第二號

何郡葬儀人員表

自明治何年
至明治何年
一月
七月
六月
十二月

月記	埋葬人員					火葬人員					合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
總計												

甲第二百十一號 明治十三年十二月廿七日

明治十二年當縣甲縣六十八號布達同乙第七十二號乙第七十六號達患者死亡届取扱心得等左ノ通改正來ル明治十四年二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

死亡届取扱心得

第一條 死亡届ハ左之條々ニ據リ衛生委員へ差出ヌヘ

第二條 醫員於テ施治ノ患者死亡スルキハ第一號書式ノ届書ヲ死者ノ家人ニ附與ヌヘシ
但二名以上ノ醫員ニテ治療スルキハ主任者届書ヲ

作し重複遺漏ナキヲ要ス

第三條 患者死期ニ至リ初テ診察シ藥劑ヲ服セヌ死亡セシモノト雖前條ノ手續ヲナヌヘシ

第四條 頓死或ハ急性病等ニテ醫ヲ招クノ暇ナク死去セシ者モ尙醫員ニ就テ死後診斷ヲ乞ヘシ醫員於テハ其親戚等ニ病狀ヲ審問シ第二號書式ノ届書ヲ死者ノ家人ニ附與ヌシ

第五條 醫員ニ於テ診斷ノ未變死等ノ疑^{アル}ルモノハ戶長又ハ町村衛生委員ヲ經テ所轄警察署或ハ分署等ヘ通報シ事落着ノ上死亡届ヲ與フヘシ

第六條 醫員於テ警察官等ノ請求ニ應^ジ途上行斃其他ノ死休ヲ診斷シ死亡届ヲ附與ヌ可キ家人ナキ場合ニ於テハ届書ヲ直ニ衛生委員ヘ差出ヌヘシ

第七條 生前醫員ノ治療ヲ受ル能ハヌ又第四條ノ手續ヲ盡ヌ能ハサル者ハ第三號書式ニ準シ親戚或ハ隣保連署ヲ以テ届出ヘシ

第八條 死亡届記載ノ例

一項死者ノ職業ハ官吏、醫師、僧侶、農圃、商賈、職工、舟乘、礦夫、諸力役、トシ余ハ諸業トヌ

二項婦女老幼癩疾等ニテ一身ノ常職ナキモノハ其家

ノ定職定業ニ據ル

三項死後診断ハ生前ノ病症知得ヘキ文ヲテ記シ若シ
 詳ナラサレハ病名不詳ト記スヘシ

四項疾病ヲ別テ左ノ十一類トス必此名稱ニ據リテ區
 別記載スヘシ若シ左ノ類別ニ據ル能ハサルモノ
 ハ其症候ヲ詳ニ記載スヘシ

流行病、全身病、神経系諸病、血行器諸病、呼吸器諸病、
 消化器諸病、泌尿生殖器諸病及婦人病、小兒病、皮膚
 病附微毒、外科的諸病、外傷

五項病類病名區分概略ヲ左ニ示ス

流行病

虎列刺 <small>漢名類</small>	秩扶斯 <small>一名發疹</small>	泰襲主熱 <small>一名勝</small>	赤痢 <small>漢名瘧疾</small>
天然痘	疏疹 <small>一名水疹</small>	寶布埜利亞 <small>漢名總</small>	百日咳 <small>一名咳</small>
格魯布 <small>漢名馬脾風ノ類</small>	猩紅熱 <small>漢名癩疹ノ類</small>	間歇熱 <small>漢名疾</small>	水痘 <small>漢名痘</small>
脚氣	羅斯 <small>漢名丹毒ノ類</small>		
傷寒	瘟疫	熱病 <small>(大陽症、厥陰症、天陰症、陽明症)</small>	神經熱
丹毒	瘧疾	馬脾風	喉非
傳染疫	腐敗熱	充血熱	腸胃熱
暴瀉病 <small>(痧病)</small>	遷延熱 <small>(又稽留熱)</small>	等ノ諸病	此部ニ屬ス

全身病

瘰癧 一名腺病

貧血病 附白血病

痛風 一名伊儒

儂麻質斯

蜜尿病

尿毒症

萎黃病 一名處女病又黃胖

佝僂病

失荷兒倍苦

嗽衝熱 結毒 惡液疾 歷節風 老衰病 (枯勞)

水腫 (浮腫 虛腫 產前產後水腫 皮膚水腫 全身水腫) 天稟薄弱 (又虛弱)

血虛 痼疾 消削病 風水病 中濕 傷冷毒 風一毒

內傷病 關節嗽衝 結核 脾疝 骨節炎 失血症

鶴膝風等ノ諸病也此部ニ關ス

神經系諸病

中

風 或腦出

腦炎

腦膜炎

腦充血

癲癇

的答尼斯 一名破傷風

癲狂

麻痺 痺局處或上下半身

結核性腦膜炎

日射病 熱中症ノ類名

腦軟化 漢名腦瀰ノ類

眩暈

脊髓炎 附脊髓勞

依卜昆培兒 一名鬱憂病

中暑 卒厥 頭痛 (血暈又產後血暈) 痿瘓病 腰痛 腦漏

精神錯亂 顏面痛 癩癆 卒中 神經痛 (又神經勞)

亞兒簡保兒中毒 健忘怔忡 半身不遂 急癩 癩癩

解顛 腦脈越謨蒲利症 癩症 腦髓血虐 癩癩

頭瘟病 舞蹈病等ノ諸病也此部ニ關ス

血行器諸病

心臟神經痛 原名心絞痛

心內膜炎

心包炎

心膨大 附心肥大

心辨膜病

動脈瘤

トロムボシス

血塞

エムホリスム

栓塞

心包水腫

心臟破裂

心悸動

心臟麻痺

靜脈瘤

心臟

脂化等ノ諸病此部ニ屬ス

呼吸器諸病

氣喉炎

及潰爛

氣管枝炎

一名肺胃寒

肺充血

肺炎

喘息

一名痰喘

咯血

胸水

聲隙水腫

胸膜炎

或肋膜炎

肺勞

一名肺結核

肺氣腫

肺癰

虛勞

痰飲

肺癰卒中

勞役感冒

風勞

肺痿

氣管枝痙攣 辛格比(窒息) 咽喉締毒(梅毒性咽喉締毒)
衄血 胸痛 聖京佩(傷風) 聲門痙攣 結胸 骨蒸熱
咳嗽等ノ諸病モ此部ニ屬ス

消化器諸病

胃炎

胃潰瘍

胃痛

腸炎

一名腸癰

腸加多兒

腹膜炎

漢名衝疝ノ類

腹水

肝炎

肝臟硬結

附消耗症

胃弱

一名胃酸液症又胃弱

疝痛

肝臟充血

黃疸

腸管壅塞

一名吐瀉病

胃軟化

吐血

附下血

痔疾

鶴亂

蛔蟲

耳下腺炎

一名腺發癰

扁桃腺炎

下痢 中寒(或ハ一ノ下痢)

支飲 痔漏 條蟲

癩漿(癩氣ノ瘡)

寒疝 腸間膜勞 兩便閉(或ハ大便閉) 脾胃衰弱(脾胃損傷)
 食道狹窄 胃加多兒 脾勞 嘔吐(泄瀉) 完穀下痢
 舌根癌腫 胃血 脾臟肥大 癰囊 腸間膜癌腫
 黑物吐下病 脫肛 鉛毒仙 膽液熱 飲食傷 溜飲
 膽液下痢 肝臟肥大 口內病(口中腐敗) 溶崩下痢
 門脈淤衝 口內潰瘍 胃體雜(吞酸) 噯噎 反胃
 胃管及賁門狹窄 腸結核等ノ諸病モ此部ニ關ス
 泌尿生殖器諸病附婦人病

膀胱炎
 プライト病

膀胱結石
 腎炎

腎臟出血一名尿血
 子宮炎

攝護腺肥大
 子宮兼腹膜炎

卵巢腫瘤
 產后出血
 妊婦惡阻
 產婦腹膜炎
 尿閉

子宮出血 崩一名
 產后白腫
 產婦搐掣 子一名
 月經閉

子宮腫瘤
 妊婦蛋白尿
 痔 熱 一名產婦
 敗血症
 帶下

半產 一名傷產
 妊婦尿毒症
 產婦癲狂
 痲疾

血塊(瘀血) 消渴病 痔勞 血症(血勞血毒) 子宮癌變
 卵巢淤衝 卵巢水腫 遺精 膀胱加多兒 胞衣不下
 鼓脹(脹滿)等ノ諸病モ此部ニ關ス
 小兒病

初生肺痿

蒼身病

稟賦畸形

臍出血

鎖 肛 遺傳微毒 初生兒黃疸 非常出產 鵝口瘡

驚風(搐掣) 癆風 肺不全膨脹 遺毒(胎毒頭瘡) 走馬牙疳

重舌(木舌) 疳疾(疳瀉疳虫) 鎖陰 瘡毒 營養不給(或ハ發育不全)

生齒熱 乳癰利等ノ諸病ニ此部ニ屬ス

外科的諸病附外傷

火 傷 或湯傷 打撲頭蓋骨傷 打撲腦振盪 創 傷

腐骨疽 潰 瘍 水脉腺炎 癰 或疔

鎖頓腸墜一名腸脫 中 毒 膿毒症 眼 病

壞 疽 或脫疽 乳 癌 瘡 腫一名翻花瘡 癩

舌 疽 罌丸壞疽

流注瘡 耳病 骨槽風 骨膜炎 乳癰 陰狐疝 癰腫

咬傷 癩疾 囊癰 恐水病 腎癰 失榮 腐牙癰

癰疽 膝蓋骨炎等ノ諸病ニ此部ニ屬ス

皮膚病附微毒

癩 詳名列布羅 一 株 毒 疥癬 腎囊風 メラース(黑癩)

赤遊風 楊梅瘡 疥癬 腎囊風

凍瘡等ノ諸病ニ此部ニ屬ス

第壹號

死亡届

病類(流行病 全身病)ノ類
病名(虎列刺病 中風)

姓

名(初生ノ兒ニテ未タ命名セサル者ハ某ノ初生兒ト下配ス)

職業

當何月何年何ヶ月

何縣何國何郡何町何番屋敷

(某父母幾男女兄弟姉妹妻妾等)

右拙者施治ノ患者ニ候處月日死亡候ニ付此段致御届候也

年月日

醫師

姓

名

縣何國何郡何町何番屋敷

區郡長宛

第貳號

死亡届

肩書同上

姓

名(初生兒コト命名セサルモノ同上)

當何月何年何ヶ月

何月何日死亡

右月日死後診斷候處頭書之通診定候ニ付此段致御届候也

肩書同上

醫師

姓

名

年月日

區郡長宛

第三號

死亡届

知ル可クツケノ
客体ヲ記スヘシ

肩書同上

姓

名

初生兒ニテ命名
セサルモノ同上

何月何日死亡

當何月何年何ヶ月

右云々ノ次第ニテ醫員ノ死亡届書無之ニ付此段致御届
候也

肩書同上

年月日

姓

名

親戚又ハ隣保

姓

名

區 郡 長 宛

甲第百二十二號

明治十三年十二月二十七日

燒場ノ儀ニ付明治八年當縣第九十六號ヲ以相達置候處
今回内務省乙第百五拾號ヲ以右取扱心得書第三條左之通
更正相成候條此旨布達候事

燒場ハ火爐烟筒及口墻壁等ヲ設クヘシ尤人家遠隔ノ
山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ不苦候事

乙第百四十七號

明治十三年四月十四日

今般甲第百四十號ヲ以テ町村衛生委員設置法及ヒ事務取
扱心得書等布達候條該主意ヲ懇示シ速ニ配置候様誘導
可致此旨相達候事

乙第百五十六號

明治十三年四月二十日

前書之通相違無御座候也

何縣何國郡區町村番地
特許藥舖

年號月日

何ノ某印

乙第百六十八號

明治十三年五月三日

今般甲第五十九號ヲ以テ火葬并埋葬場設置之儀布達候
ニ付テハ地位檢査申出候ハ、警察署ニ通知シ立會ノ上
調査可致此旨相違候事

乙第百壹號

明治十三年六月二十三日

明治十一年當縣乙第百四十八號同十二年乙第七十二號
達申左ノ通改正候條此旨相違候事

乙第百四十八號違第一條但書ヲ刪除シ第四條各町村用

係ノ五字及届書表式中用係ノ二字ヲ衛生委員ト改ム

乙第七十二號達中第一條第二條各郡區役所ノ四字及第

四條但書醫務取締或ハ郡區役所ノ十字ヲ刪除シ衛生委

員ヲ經テ郡區役所ヘト改メ第四條中戶長ノ二字ハ都テ

衛生委員ト改ム

明治十三年七月十二日

乙第百拾六號

郡區役所

町村衛生委員

死七日表出產流產等月報表本月ヨリ別紙雛形ニ因リ無

遺漏取調翌月十日迄ニ郡區役所へ可差出此旨相違候事
但醫師施治ノ患者并醫師ノ治療ヲ受ケサル患者死亡
届ハ衛生委員事務取扱心得第一條ニ因リ一ヶ月分取
纏メ月報表一同郡區役所へ差出ヌヘシ

男女
日一
日二
日三
日四
日五
日六
日七
日八
日九
日十
日十一
日十二
日十三
日十四
日十五
日十六
日十七
日十八
日十九
日二十
日二十一
日二十二
日二十三
日二十四
日二十五
日二十六
日二十七
日二十八
日二十九
日三十
計

計	男女		出產		私生		出產		計
	女	男	女	男	女	男	女	男	
公私出產									
現在夫婦數									
結婚									
離婚									
計									
拾八年以上ノ死亡婚姻上關係									
男女ノ別									
計									
職業									
諸業									
農業									
商業									
職工									
力役									
計									
種痘未痘									
男女ノ別									
初種									
再三種									
未種									
計									
段別戶數人口									
段別									
戶數									
本籍現住人口									
入寄留									
出寄留									
本籍現住人口 入寄留計									

○流産ハ妊娠四ヶ月以上ノ者ヲ記ス滿月ト雖モ死胎分娩ノ者ハ之ヲ流産ノ部ニ算入ス○夫婦ノ數ハ其月末日ノ現在員數ヲ掲ケ結婚離婚ハ其一ケ月中ノ數ヲ算ス○戶數人口ハ其月末日ノ員數ヲ掲ケ

○職業ヲ分ツニ婦女若クハ老幼癡疾等ニテ常職定業アリキモノハ戶主家族ヲ論ヒス其一ケ月ノ營業ニ
 ○例ハ一家ノ營業ハ農事ヲ專トシ戶主獨リ工業ヲ執ル者ノ家族ニテ自己一身ノ恒
 ○官員及
 ○職ナキモノノ如キハ戶主ノ何業タルニ拘ハラズ其家業(即チ農)ノ部ニ入ル者トス
 ○官員及
 ○藝術家ノ始メ華士族平民共ニ農商工力役ニ表面職業科目第一ニ除ク外ハ總之ヲ諸業科目ノ部
 ○編入ス

乙第一百十八號

明治十三年七月二十一日

衛生事務取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

衛生事務取扱手續

第一條 郡區内衛生上ニ關スル諸般ノ事ニ注意シ及
町村衛生委員ヨリ開申スル事件ヲ審査シ意見アルモ
ノハ添テ具申スル事

第二條 町村衛生委員連署人民願伺届ヲ調査シ之ニ與
印スル事

第三條 醫師產婆鍼灸術獸醫及藥舗製藥賣藥業ノ名簿
ヲ備置キ每二月八月廿日限、人員表ヲ製シ進達スル

事

第四條 死亡届ヲ取纏メ別表第一號月報表ヲ製シ翌月
廿日限リ進達スル事

第五條 町村衛生委員ヨリ差出ヌ死亡日表并ニ出産流
産各職人員種痘未痘等ノ月報ヲ取纏メ別表第二號月
報表ヲ製シ翌月廿日限リ進達スル事

第六條 別表第三號流行病患者月報表ヲ製シ翌月廿日
限リ進達スル事

但流行病患者及治癒死亡共醫師ノ届書ハ從前之通
其都度縣廳ヘモ差出サシムヘシ

第七條 醫師ヨリ差出ヌ種痘表ヲ取纏メ每半年ノ總計
表ヲ製シ二月八月廿日限リ進達スル事

第八條 第四條ヨリ第六條ニ至ル月報ヲ取纏メ別表第
二號ヨリ第四號每半年ノ統計表ヲ製シ二月八月廿日
限リ進達スル事

但死亡統計表ハ明治十二年當縣乙第七十六號達
因リ備考ヲ附記スヘシ

第九條 中毒死亡町村衛生委員ヨリ届出ル時ハ醫師ノ
申立書ヲ添ヘ其都度進達スル事

第十條 傳染病アリテ町村衛生委員ヨリ申出ルカ若ク

ハ見聞ヌルハ直ニ豫防ニ着手シ及縣廳へ報告スル
事

但家畜ノ傳染病モ亦本條ニ同シ

第十一條 地方風土病ノ有無其類別及多少ニ注意シ死
亡統計表ノ備考中ニ掲記スル事

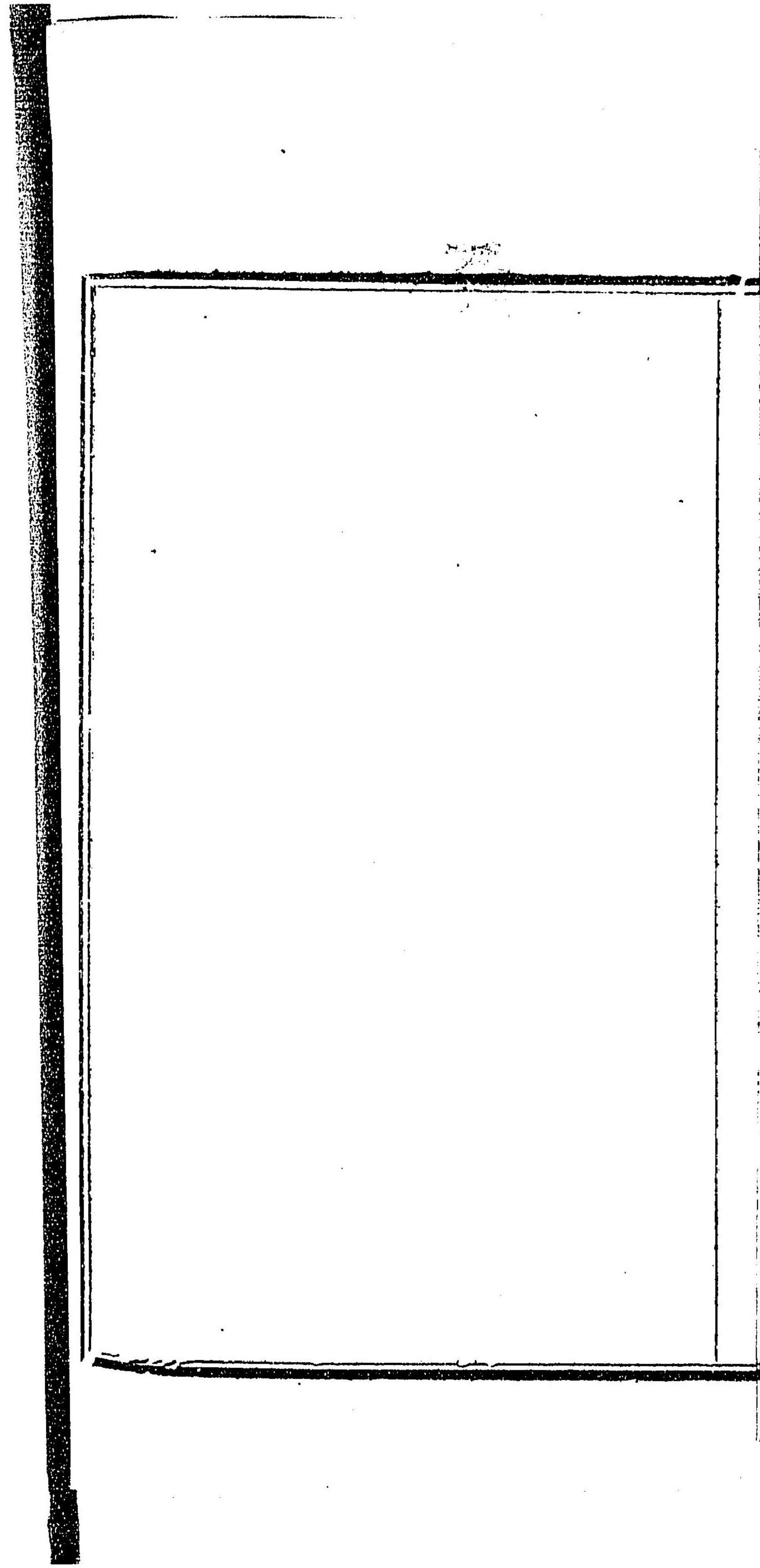
第十二條 埋葬地ノ地形及火葬場ノ構造等ヲ檢察スル
事

第十三條 郡區醫配置ノ方法ヲ設ケ開申スル事

第十四條 毒藥劇藥及價收藥ノ取締ニ注意スル事

第十五條 流行病ノ盛ナルニ際シ町村衛生委員臨時増

加ヲ申立ルルハ其町村會議員ノ公選ヲ以テ便宜増加
セシメ縣廳へ開申スル



附 言	計	男 女	初 種	種 痘 未	計	力		職		商		農		諸		職	業	現 在 夫 婦 數 結	婚	計	流		正		出	公 私 出 産	女 男	初 生 以 上 拾 五 年 以 上 死 年 齡	死 年 齡	
						役		工		業		業		産							産		女 男	死 年 齡						死 年 齡
						女	男	女	男	女	男	女	男	女	男						女	男								

解説○流産ハ妊娠四ヶ月以上ノ者ヲ
 夫婦ノ數ハ其月末日ノ現在負數ヲ
 中ノ數ヲ算ス○戸數人口ハ其月
 其他解説ヲ要スル事件ハ附

郡區 月半年 統計報 表

日 表

八日九日十日十一日十二日十三日十四日十五日十六日十七日十八日十九日二十日廿一日廿二日廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日

平均年齡	拾年以上死亡者婚姻上關係
五年以上五拾年以上總計	
數年 齡死數年 齡死數年 齡死數年	男女別 既婚 未婚 計
女男	

出產	私生	出生	產
正產	男		
流產	女		
計產			

數結	婚	離	婚
----	---	---	---

業	段別戶數人口
戶數	
本籍現住合	
入寄留	
出寄留	
本籍現住人口寄留計	

痘未痘	種再三種未痘
計	

計滿月... 胎公地... 產...

平均年齢

拾五年以上五拾年以上總計

拾年以上死亡者婚姻上關係

死年 齡 死年 齡 死年 齡 死年 齡 男女ノ別 既婚 未婚 計

女男

出 産

産

私

生

出

産

正

産

女男

流

産

計

姻

数 結

婚

離

婚

業

段

別

戸 數

人

口

段 別

戸 數

本籍現住人

入 寄 留

出 寄 留

本籍現住人
入寄留 計

痘 未

痘

種

再

三

種

未

痘

計

以上ノ者ヲ記ス満月ト雖モ死胎分娩ノ者ハ之ヲ流産ノ部ニ算入ス○
現在負數ヲ掲ケ結婚離婚月報ハ其ヶ月ノ數統計ハ毎半年
人口ハ其月末ノ負數ヲ掲ク○表中負數増減ノ原因等及ヒ
事件ハ附言ノ欄内ニ記載スヘシ

第三號表

明治 年 月 日 調

郡 區 上 流 行 年

病名	腸室扶私					疥疹室扶私					痘瘡					麻疹					實扶的里亞					赤痢					總計
	諸業	農	商	職工	力役	小計	諸業	農	商	職工	力役	小計	諸業	農	商	職工	力役	小計	諸業	農	商	職工	力役	小計	諸業	農	商	職工	力役	小計	
男																															
女																															
男																															
女																															
男																															
女																															
男																															
女																															
男																															
女																															

附言

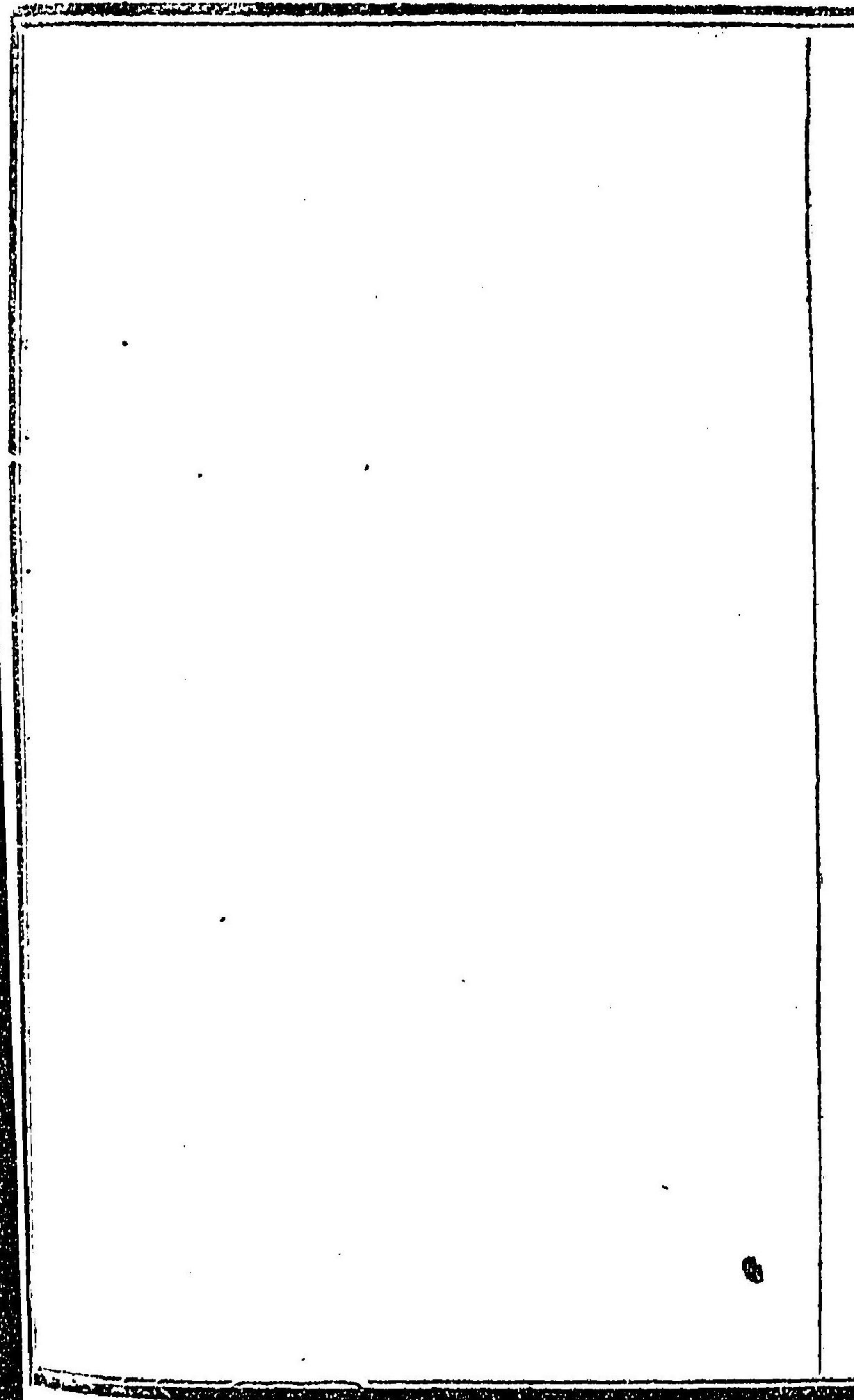
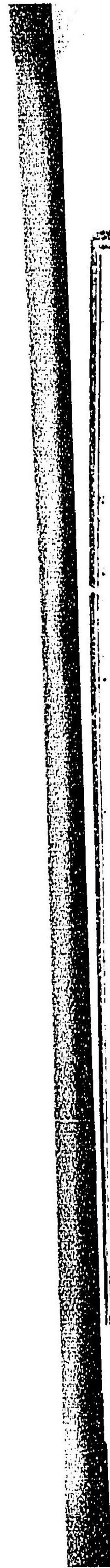
乙第百四十一號

明治十三年九月九日

郡區役所

町村衛生委員

死亡日表出產流產等月報表取調之儀ニ付本年當縣乙第
 百十六號ヲ以相達候處別紙離形之通改正候條本年七月
 一日分ヨリ右離形ニ因リ更ニ調製可差出爾來每翌月十
 日迄ニ郡區役所へ可差出此旨相達候事
 但死亡届ハ一ヶ月分取纏メ月報表一同郡區役所へ差
 出スヘシ



第壹號表

料紙適宜

明治 年 郡 町 月 報 表 主計 衛生 委員 姓
 月 日 調 區 村

公 私 出 產

出 產 產 出 生 出

正 產 女 男 正 產 女 男

流 產 流 產

婚 姻

現 在 夫 婦 數 結 婚 離

配 偶 數 拾 四 年 以 上 人 口 數 拾 四 年

五 十 年 以 上 婦 廿 年 以 上 婦 廿 年 以 下 婦 合 計 男 女 計 未 婚

種 痘 人 員

初 種 再 三 種 合 計 十 五 年 以 下 人 員 內 種 痘 濟 天 然 痘 濟 未 課

段 別 戶 數 人 口

段 別 出 寄 留

戶 數 入 寄 留

本 籍 現 住 人 口 入 本 籍 現 住 人 口 寄 留 計

附 言

年 郡 町 村 月 報 表 主 計 衛 生 委 員 姓 名 印

公 私 出 産

出 産 公 私 出 産

産	男	正 産
	女	

産	流 産
---	-----

婚 姻

在 夫 婦 數 結 婚 離 婚

偶 々 數 拾 四 年 以 上 人 口 數 拾 四 年 以 上 男 女 獨 身 數

婦 廿 年 以 上	婦 廿 年 以 下	合 計	男	女	計	未 婚 者	一 回 以 上 婚 嫁 者
-----------	-----------	-----	---	---	---	-------	---------------

種 痘 人 員

一 再 三 種 合 計	十 五 年 以 下 人 員	內 種 痘 濟	天 然 痘 濟	未 痘	種 痘 醫
-------------	---------------	---------	---------	-----	-------

段 別 戶 數 人 口

別	出 寄 留
---	-------

數	入 寄 留
---	-------

住 人 口	本 籍 現 住 人 口	入 寄 留 計
-------	-------------	---------

言

第貳號表 料紙適宜

明治 年 郡 町 村 上半年衛生費出納表 主計 衛生委 姓

收		受		支		内譯小科	
費目	金員圓	科目	金員圓	何々	何費	給	手
協議費		町村衛生				旅	手
		委員費				贈	手
		流行病				需用	手
		豫防費				雜	手
						小	手
						諸	手
						消毒藥	手
						備	手
寄附金							
何々							
金員合計							

第一號表解釋

○流産ハ妊娠四ヶ月以上ノモノヲ記ス但滿十ヶ月ト雖死胎分娩ノモノハ總テ之ヲ流産ノ部ニ入ル○妾庶勿論ナリト雖モ若シ其妾未ダ公然送籍ノ手續キテ經サル者ハ尙ホ之ヲ私生ト見做ス○出産婚嫁并ニ種他管ヨリ寄留セラル者ヲモ數中ニ算入スルモノトス尤通過ノ旅人及ヒ一時滯留ノ者ハ此例ニ非ス○現在數ヲ掲ク○一夫コレヲ數人ノ妻妾ヲ蓄フ者モ(妾ノ公然入籍セタル)尙ホ之ヲ一夫婦トス○妻ナクシテ妾然送入籍ノ手續キテスレハ之ヲ夫婦ニ算シ未シ其手續キテセサル者ハ之ヲ算セス○結婚離婚ハ其月中ノ他ノ町村ノ男女ト結婚スルモハ其住居地ノ結婚數ニ算入ス但結婚スルモハ即チ結婚欄内及其月現在夫婦離婚モ右ニ準シ其欄内ヘ一ヲ計入ス尤其月現在夫婦ノ欄内ニ一ヲ減ス○僧尼或ハ陰陽不具癘疾ノ如キ終壯者ハ勿論老年ト雖モ未ダ曾テ一回モ婚嫁セサルモノハ都テ之ヲ未婚者ノ部ニ算入ス○離令ハ男女ノモ公然送入籍ノ手續キテセサル者ハ之ヲ未婚ノ數ニ入ル○配偶ノ數及十四年以上ノ人口數ハ其月末ノ數ノ面積ヲ見ルモノナレハ山林原野等漏サス計入ス○戶數ハ社寺ヲ除ク○寄留ハ管内外ヲ問ハテ出入入死亡スルモハ寄留先ノ衛生委員ヘ届出サセ其旨原籍ノ役員ニ通知セシムヘシ○失跡逃亡人ハ暫ク出遊若シ一人モ種痘セサルモハ種痘人員ノ欄ニ印ヲ記スヘシ○十五年人員ハ其月末ノ數ヲ掲ク○表中員數解説ヲ要スル事件ハ附言ノ欄内ニ記載スヘシ

第二號表解釋

○本表ハ每半年度ノ表式ニシテ町村衛生費ニ關係シタル出納ハ細大漏サス掲記シ若料日多キハ別ニ録スヘシ

附言

此第一號第二號ノ表式ハ一町一村ノ月報表ナルヲ以テ假令一町村ニ數名ノ衛生委員在テ分擔スルモ一紙トス

郡 町 區 村

上半年衛生費出納表

主計

衛生委員

姓名

印

受		支		出	
金員	圓錢	科 目	金員	圓	錢
		町村衛生			
		委員費			
		流行病			
		豫防費			
		何 費			
			給料		
			手当		
			旅費		
			賄料		
			需用費		
			雜費		
			小計		
			諸備給		
			消毒藥費		
			何々		
			何々		
			何々		
			何々		
			何々		
			何々		
			小計		

六月以上ノモノヲ記ス但滿十月ト雖死胎分娩ノモノハ總テ之ヲ流産ノ部ニ入ル○妾腹ノ子モ公生ニ算スルハ
 若シ其妾未ダ公然送籍ノ手續キテ經サル者ハ尙ホ之ヲ私生ト見做ス○出產婦并ニ種痘人員等ノ員數ハ總テ
 算ル者ヲモ數中ニ算入スルモノトス尤通過ノ旅人及ヒ一時滯留ノ者ハ此例ニ非ス○現在夫婦ノ數ハ其月末ノ員
 數トシテ數人ノ妻妾ヲ蓄フ者モ(妾ノ公然入籍シタル)尙ホ之ヲ一夫婦トス○妻ナクシテ妾アルモノハ其妾既ニ公
 認スレハ之ヲ夫婦ニ算シ未シ其手續了セサル者ハ之ヲ算セス○結婚離婚ハ其月中ノ數ヲ掲ク○他管下或ハ
 結婚スルモ其住居地ノ結婚數ニ算入ス但結婚スルモ即チ結婚欄内及其月現在夫婦ノ欄内へ各一ヲ計入シ
 兵欄内へ一ヲ計入ス尤其月現在夫婦ノ欄内ニ一ヲ減ス○僧尼或ハ陰陽不具癡疾ノ如キ終身婚嫁ノ期ナキモノモ
 雖モ未ダ曾テ一回モ婚嫁セサルモノハ都テ之ヲ未婚者ノ部ニ算入ス○縱令ハ男女アリ其實夫婦ニ異ナラサル
 手續了了セサル者ハ之ヲ未婚ノ數ニ入ル○配偶ノ數及十四年以上ノ人口數ハ其月末ノ數ヲ掲ク○段別ハ其町村
 ノナレハ山林原野等漏サス計入ス○戶數ハ社寺ヲ除ク○寄留ハ管内外ヲ問ハフ部テ出入寄留ニ計入ス故ニ寄留
 寄留先ノ衛生委員へ届出サセ其旨原籍ノ役員ニ通知セムヘシ○失踪逃亡人ハ暫ク出寄留ノ内ニ計入ス○其月
 セサルモ種痘人員ノ欄ニ印ヲ記スヘシ○十五年人員ハ其月末ノ數ヲ掲ク○表中員數増減ノ原因等及ヒ其他
 件ハ附言ノ欄内ニ記載スヘシ

及ノ表式ニシテ町村衛生費ニ關係シタル出納ハ細大漏サス掲記シ若科目多キトハ別ニ線畫ヲ設ケテ其目ヲ掲記

ノ表式ハ一町一村ノ月報表ナルヲ以テ假令一町村ニ數名ノ衛生委員在テ分擔スルモ一紙ノ表ニ合計スルハ勿論

乙第四百四十二號

明治十三年九月九日

本年當縣乙第四百十八號ヲ以相違候衛生事務取扱手續左
之通改正候條此旨相違候事

但諸統計表ハ本年七月一日分ヨリ調製差出ヌヘシ

衛生事務取扱手續

第一條 郡區內衛生上ニ關スル諸般ノ事ニ注意シ及ヒ
町村衛生委員ヨリ開申スル事件ヲ審査シ意見アルモ
ノハ添テ具申スル事

第二條 町村衛生委員與書人民願伺届ヲ調査シ之ニ與
印スル事

第三條 醫師產婆獸醫及藥舖製藥家賣藥業ノ名簿ヲ備ヘ置ク事

第四條 死亡届ヲ取纏メ月報統計表ヲ製シ進達スル事

第五條 町村衛生委員ヨリ出ス表ヲ取纏メ月報統計表ヲ製シ進達スル事

但種痘人員及十四年以上配偶ノ數等ハ第七條第十條ニ依リ月報ニ及ハス

第六條 町村衛生委員ヨリ出ヌ每半年衛生費出納表ヲ取纏メ統計表ヲ製シ進達スル事

第七條 町村衛生委員ヨリ出ヌ月報中配偶ノ數及十四

年以上人口十四年以上男女獨身ノ數ヲ取纏メ每半年度統計表ヲ製シ進達スル事

第八條 町村衛生委員ノ名簿ヲ備置每半年度統計表ヲ製シ進達スル事

第九條 傳染病患者每半年度ノ統計表ヲ製シ進達スル事

但傳染病患者及治愈死亡共醫師ノ届書ハ速ニ縣廳ヘ進達スヘシ

第十條 町村衛生委員及醫員ヨリ出ヌ種痘人員表ヲ調査シ每半年度統計表ヲ製シ進達スル事

第十一條 地方病患者每半年度統計表ヲ製シ進達スル事
第十二條 家畜傳染病每半年度統計表ヲ製シ進達スル事
第十三條 天然生藥物ヲ取調每半年度統計表ヲ製シ進達スル事

第十四條 以上月報統計表ハ翌月廿日限、每半年度統計表ハ二月八月廿日限、進達スヘキ事

第十五條 中毒死亡町村衛生委員ヨリ届出ルルハ醫師ノ申立書ヲ添ヘ其都度進達スル事

第十六條 傳染病アルルハ直ニ豫防ニ着手シ時々其景狀ヲ縣廳ヘ報告スル事

但家畜傳染病モ本條ニ同シ

第十七條 埋葬場ノ地形及火葬場ノ構造等ヲ檢察スル事

第十八條 郡區醫ヲ監督スル事

第十九條 毒藥劇藥及贗敗藥其他飲食物玩弄品着色料ノ取締ニ注意スル事

第二十條 衛生事務擔任ノ郡區書記官等姓名備吏該事務ニ從事スル者姓名給料人員ヲ申報スル事

但爾後任免増減ノ節モ申報スヘシ

第二十一條 郡區内衛生上ノ實況ヲ蒐録シ年報ヲ製シ毎年二月廿日限、進達スル事

第廿二條 流行病ノ盛ナルニ際シ町村衛生委員臨時増
加ヲ申立ルルハ其町村會議員ノ公撰ヲ以便宜増加セ
シメ縣廳ヘ開申スヘキ事

乙第百八十六號

明治十三年十一月二十四日

郡區役所

町村衛生委員

本年富縣乙第百四十一號ヲ以相違候第一號月報婚姻表
ノ中結婚離婚及配偶數十四年以上人口數十四年以上男
女獨身數ハ自今月報ニ及ハヌ別紙雛形ノ通第二號表ヘ
追加候條此旨相違候事

第二號每半年表追加

下半年 婚姻 表

配 偶 數	五拾年以上ノ婦		廿年以上ノ婦		廿年以下ノ婦		合 計
	男	女	男	女	男	女	
半年期內結婚							十四年以上人口數
半年期內離婚							十四年

第一號表解釋改正

○本表ハ月報ノ表式トス○流産ハ妊娠四ヶ月以上ノモノヲ記ス但滿十ヶ月ト雖死胎分娩ノ者ハ總テ之ヲ流産子モ公生ニ算スルハ勿論ナリト雖モ若シ其妻未タ公然送入籍ノ手續キテ經サル者ハ尙ホ之ヲ私生ト見做ス員等ノ員數ハ總テ他管ヨリ寄留シタル者ヲモ數中ニ算入スルモノトス尤通過ノ旅人及ヒ一時滯留ノ者ハ此數ハ其月末ノ員數ヲ掲ゲ○一夫ニシテ數人ノ妻妾ヲ蓄フ者モ(妾ノ公然入籍セザルト否ト問ハス)尙ホ之ヲ一夫婦トス○妻其妾既ニ公然入籍ノ手續ヲ了スレハ之ヲ夫婦ニ算シ未タ其手續ヲ了セサル者ハ之ヲ算セス○段別ハ其町村山林原野等漏サス計入シ川敷道敷等ノ如キ目下詳細ヲ得難キモノハ姑ク其面積ノ概畧ヲ段別ノ欄内ニ附記除ク○寄留ハ管内外ヲ問ハヌ都テ出入寄留ニ計入ス故ニ寄留人死亡スルハ寄留先ノ衛生委員ハ届出サセセシムヘシ○常備軍又ハ失跡逃亡人犯罪人ハ姑ク出寄留ニ計入ス○其月若シ一人モ種痘セサルハ種痘人町村ハ種痘醫ノ欄ニ印ヲ記スヘシ○十五年以下人員ハ其月末ノ數ヲ掲ゲ○表中員數増減ノ原因等及ヒ其附言ノ欄内ニ記載スヘシ

第二號表解釋改正

○本表ハ每半年度ノ表式トス○每半年期內町村衛生上ニ關係シタル費用ノ出納ハ細大漏カス掲記シ若科目ケ其目ヲ掲記スヘシ○結婚離婚ハ每半年期內ニ結婚離婚セシ合數ヲ掲ゲ○他管下或ハ他ノ町村ノ男女ト結婚數ニ算入シ離婚モ右ニ準ス但結婚スルハ其月現在夫婦ノ欄内ニ其數ヲ計入シ離婚スルハ其月現在夫ス○僧尼或ハ陰陽不具癘疾ノ如キ終身婚嫁ノ期ナキ者モ壯者ハ勿論老年ト雖モ未タ曾テ一回モ婚嫁セサルノ部ニ算入ス○縱令ハ男女アリ其實夫婦ニ異ナラサルモ公然送入籍ノ手續ヲ了セサル者ハ之ヲ未婚者ノ數ニ算入ス○四年以上人口數十四年以上男女獨身ノ數ハ每半年期月末ノ現在數ヲ掲ゲ

附言

此第一號第二號ノ表式ハ一町一村ノ統計表ナルヲ以テ假令一町村ニ數名ノ衛生委員在テ分擔スルハ一紙ノ

下半年 婚姻表

偶數	五拾年以上、婦廿年以上、婦廿年以下、婦合計		十四年以上人口數		十四年以上男女獨身ノ數	
	男	女	計	未婚者	一回以上 婚嫁セシ者	
結婚						
離婚						

釋改正

ノ表式トス。○流産ハ妊娠四ヶ月以上ノモノヲ記ス但滿十ヶ月ト雖死胎分娩ノ者ハ總テ之ヲ流産ノ部ニ入ル。○妾腹ノ
 夫ルハ勿論ナリト雖若シ其妾未タ公然送入籍ノ手續キテ經サル者ハ尙ホ之ヲ私生ト見做ス。○出産婚嫁并ニ種痘人
 總テ他管ヨリ寄留シタル者モ數中ニ算入スルモノトス尤通過ノ旅人及ヒ一時滯留ノ者ハ此例ニ非ス。○現在夫婦ノ
 員數ヲ掲メ。○一夫ニシテ數人ノ妻妾ヲ蓄フ者モ(妾ノ公然入籍セシタルト否トテ問ハス)尙ホ之ヲ一夫婦トス。○妻ナクシテ妾アルモノハ
 入籍ノ手續ヲ了スレハ之ヲ夫婦ニ算シ未タ其手續ヲ了セサル者ハ之ヲ算セス。○段別ハ其町村ノ面積ヲ見ル爲ナレハ
 管内外ヲ問ハヌ都テ出入寄留ニ計入ス故ニ寄留人死亡スルモハ寄留先ノ衛生委員ニ届出サセ其旨原籍ノ役員ニ通知
 常備軍又ハ失跡逃亡人犯罪人ハ姑ク出寄留ニ計入ス。○其月若シ一人モ種痘セサルモハ種痘人員ノ欄ニ及種痘醫ナキ
 ノ欄ニ印ヲ記ス。○十五年以下人員ハ其月末ノ數ヲ掲メ。○表中員數増減ノ原因等及ヒ其他解說ヲ要スル事件ハ
 記載ス。○

釋改正

年度ノ表式トス。○毎半年期內町村衛生上ニ關係シタル費用ノ出納ハ細大漏サス掲記シ若料目多キモハ別ニ線畫ヲ設
 一ス。○結婚離婚ハ毎半年期內ニ結婚離婚セシ員數ヲ掲メ。○他管下或ハ他ノ町村ノ男女ト結婚スルモハ其住居地ノ
 離婚モ右ニ準ス但結婚スルモハ其月現在夫婦ノ欄内ニ其數ヲ計入シ離婚スルモハ其月現在夫婦ノ欄内ニ其數ヲ減テ
 陰陽不具廢疾ノ如キ終身婚嫁ノ期ナキ者モ壯者ハ勿論老年ト雖モ未タ曾テ一回モ婚嫁セサル者ハ都テ之ヲ未婚者結
 一ニ合シ男女アリ其實夫婦ニ異ナラサルモ公然送入籍ノ手續ヲ了セサル者ハ之ヲ未婚者ノ數ニ入ル。○配偶ノ數及十
 一數十四年以上男女獨身ノ數ハ毎半年期月末ノ現在數ヲ掲メ

一號ノ表式ハ一町一村ノ統計表ナルヲ以テ假令一町村ニ數名ノ衛生委員在テ分擔スルモ一紙ノ表ニ合計スルハ勿論ト

乙第百二號

明治十三年十二月二十四日

衛生ハ人ノ健康ヲ衛護シ生命ヲ保全スルノ意ニシテ其事
タル百般ノ事業ヲ興起スルノ本原ナルヲ以一日モ忽諸
スヘカラサルモノトス然レモ其事業ヲ施設スルニ當リ
都鄙民情ニ適セザレハ實際行ハル可カラサルモノアリ
故ニ該委員ハ衛生ノ諸件ヲ親ク考徹シ人情ヲ酌量シテ
其利害得失ヲ常ニ研究シ以テ衛生ノ方法ヲ改良セザル
ヘカラス依テ委員ニ於テ別紙楨則ニ準シ便宜集會ヲ爲
シ切實ニ商議ヲ遂ク漸次職務ノ本分ヲ盡シ候様告諭可
致此旨相達候事

(別紙)

町村衛生委員相談會概則

第一條

本會ハ專ラ衛生上ノ事件ヲ互ニ相談シ共ニ實益ヲ圖ル
事ヲ旨トス

第二條

本會ハ土地ノ景狀ニ依リ便宜聯合シテ組合ヲ設クヘシ

第三條

其地ノ醫師及ク有志ノ輩ハ組合ニ編入スルモ妨ナキモ
ノトス

第四條

本會々日及ク其場所ハ便宜之ヲ定ムヘシ

第五條

本會諸般ノ事ハ衛生委員中一名若クハ二名毎會投票或
ハ順番ヲ以テ之ヲ幹旋ヌヘシ

第六條

凡本會ニ於テハ衛生上布達并ニ諸規則ヲ講究シ衛生委
員事務取扱心得及施設上ノ利害得失ヲ相談スルモノト
ス

第七條